

山部の赤人

田子の浦ゆ打ち出でて見れば真白にぞ

不尽の高嶺に雪は降りける

田子の浦ゆ打ち出でて見れば真白にぞ

不尽の高嶺に雪は降りける

【作者】山部赤人（生没年不詳）・「萬葉集」は第一期から第四期に区分されるが、第三期に属し「山部（やまべ）」と記される「山部宿禰赤人（やまべのすくねあかひと）」であり、元明・元正・聖武天皇時代（奈良時代）の歌人。一説には天平八年・九年（七三六）頃、疫病のため没したともいわれる。諸国を旅し、清らかな自然の情調美を尊ぶ潮流の源をなした。歌聖と称され、柿本人麻呂（かきのもと）のひとまろ）とともに三十六歌仙の一人。

【語釈】*田子の浦ゆ：田子の浦を通過して 現在の田子の浦は静岡県富士郡富士川東南の地をいうが 当時は今の庵原郡興津川（いはらぐんおきつがわ）河口にまで及ぶ海岸一帯を呼ぶ 「ゆ」は時や動作の通過点をいう
*打ち出でて見れば：広々として見晴らしの良い所へ出て見ると 「うち」は「出づ」の音調を整えるための接頭語
*真白にぞ：真つ白に、まあ

【通釈】田子の浦を通過して広々と見晴らしの良い所へ出てみると、真つ白に、まあ、富士の高嶺に雪が降り積っていることだ。